

第4回吹田市総合計画審議会

開催日時 平成16年6月30日(水)午後7時00分～午後9時00分

開催場所 吹田市役所 高層棟4階 特別会議室

議事内容 (1)第4章 施策の大綱 について各部会報告
(2)第3章 人口と都市空間 について専門作業部会報告
(3)第5章 基本構想推進のために について

出席者(委員)石森秀三 衛藤照夫 大内祥子 浜岡政好 三輪信哉
宗田好史 和田葉子 池淵佐知子 倉沢 恵 神保義博
豊田 稔 信田邦彦 筏 隆臣 蒲田雄輔 鮫島 匡
前田武男 山口克也 伊東利幸 影山義紘 河井明子
河野武夫 阪口善次郎 坂本富佐晴 西岡昌佐子 菱川音三郎
北野義幸 (欠席4名)

(助 役)清野博子

(事務局)富田企画部長 牲川企画部次長 池田総括参事 宝田参事
稲田主査 岡松係員

(傍聴人)2名

議事要旨

(1)第4章 施策の大綱 について各部会報告

(会長)

第4回目の吹田市総合計画審議会を開催させていただきたい。

お手元の会議の次第に基づいて進める。次第の(1)にあるように、これまで部会に分かれ、第4章の施策の大綱について、議論を積み重ね部会の修正案をとりまとめて頂いている。

第1部会の部会長から部会の議論について、ご報告を頂きたい。

(第1部会長)

(第1部会の議論内容の報告)

(会長)

部会の修正案について、何かご意見があれば、お願いしたい。

(A委員)

5ページの「4個性がひかる学びと文化創造のまちづくり」(1)の「自分を大切

にするとともに他人を思いやり」という言葉が入っているが、この⁴の全体を見ても、子どもが他と協調して世の中を作っていくイメージが薄いと思う。「私のことは、私のことで」というように、非常に無関心社会と言われる傾向があると思うが、その意味でこれから2020年と言うと、次世代を育成する観点が非常に重要と思われる。学校教育の中では地域に参画する能力、自分達でまちをつくっていく次世代などの観点からのとらえ方が必要だと思われるので、そのような観点が入っても良いと思う。

(会長)

時代を担う子供たちの教育であるとか、しつけ、といった問題が、第1部会で相当様々な形で議論が重ねられている。A委員から、もう少し「次世代を担う人々の育成」という問題の明確化」の部分指摘頂いた。

(B委員)

5ページの⁴の上から3行目の所の「自ら学習する機会を持つことは、いまや人々の変わらない願いです」とあるが、「共通の願いです」の方が良いと思う。

「(1)学ぶ意欲と主体性を育てるまちづくり」の部分の前半4行目の後ろの方で、「豊かな人間性、たくましく生きるための健康や体力を養い」とあるが、「たくましく」というフレーズがひっかかる。例えば病気のお子さんもいるし、障害児の人もいるし、皆が皆たくましいわけではなく、けどしっかり生きている。この「たくましく」という表現は必要ではないと思う。

6ページの「(4)の多彩な文化が交流するまちづくり」の上から4行目の真ん中あたりに、「地域の習慣、伝統行事や」とあるが、「習慣」の中には「良い習慣」と「悪い習慣」がある。「地域の習慣」とかはどうか。「地域の伝統行事や歴史文化遺産を継承する」という事なら分かるが、「習慣を継承する」というのが分かりづらい。新しく住みついた人が、習慣に合わないときどうするのが気になった。

(会長)

6ページの「地域の習慣」は専門的な立場で申せば、「習慣」は個人の「習慣」、地域とか社会の「習慣」は「慣習」と言い、確かに「習慣」という言葉は必ずしも適切ではないと感じる。「変わらない願い」も「共通の願い」という方が良いと思う。

(C委員)

3ページ(1)の1行目、「次代を担う子どもたちの笑顔は市民の喜びであり、誇りです」とあるが、「子どもの笑顔は無邪気で、心のやすらぎ」という意味合いを感じるが、「誇り」なのかどうかという事で、少し違うと感じた。

「子育てを楽しめ」とある。楽しみとか苦しみとかいうレベルでない部分があると思ひ、違和感を覚えた。

5ページの上から3行目で、「いまや人びとの変わらない願い」とあるが、「いまや」と「変わらない」というのは合わないと思う。「昔も今も」という風な言い方にした方が良い。

6ページ目「(4)多彩な文化が交流するまちづくり」に「生活スタイル」という言葉があるが、一般的に「ライフスタイル」という方が馴染みが良い。

「長い時間をかけて」とあるが、「延々と育まれてきた」とか、「何世代もかけて」の言い回しの方が適切と感じた。

(会長)

6ページ目の「長い時間」という表現は、「世代をかけて」と言った方が適切であろうかと思う。その他にご意見はないか。

(D委員)

7ページの上から3行目「さまざまな学習機会や情報の提供に努める」とあるが、「情報の提供に努める」という文は良いが、「様々な学習機会の設定」とかの言葉を入れないと、「学習機会や情報の提供に努める」では、文章的におかしいと感じた。

(E委員)

3ページ(1)の2行目ですが「減少させ」とあるが、「減少」というのは、数に対して使う言葉なので「子ども同士の交流を希薄にし」とか他の言葉を使ったらどうか。

(会長)

むしろ「希薄」と言った表現、もしくはそれに類する表現の方が適切である。

6ページの下から4行目で、新たな項目として「国際感覚豊かなまちづくり」というものが追加された。これに関して皆様異存はないか。

(F委員)

5ページの4の前文の4行目だが、「ゆとりや生きがい、健康の増進を求める」こここの健康の増進の後ろに「恵まれた環境」という言葉も入れられないかと思う。

(1)の題名だが、「学ぶ意欲と主体性を育てるまちづくり」で、学ぶ意欲と主体性を育てるだけでなく、「他人を思いやる」という言葉が入らないかと思われる。

5行目で、「主体的かつ創造的に生きていく」も、「環境等他を思いやる」という言葉が先ほどの前文と関連して入らないかと思う。

6ページの(2)の4行目、「提供が必要です」という言葉であるが、今まで提供していなかった印象を受けるので、「一層」という言葉を入れた方が良いかと思う。

(G 委員)

6 ページで「(5) 国際感覚豊かなまちづくり」とあるが、これは最初のほうの文章では、吹田市民が国際感覚を身につける事で書いていると思う。しかし、7 ページの一番最後の 3 行目では吹田市に来る多国籍の市民への関係を書いているが、この下の 3 行が今回の新しい章で一番言いたい事かと思う。「市政への参画」という言葉はもちろんあるが、この辺りをもう少し深め、交流の関係等を具体的に書かれた方が良いのではないか。

(会長)

基本的にこの総合計画が2020年を目標にしているので、ここで提言されている多文化共生といった問題が重要になって来るかと思う。第 1 部会長とも協議し、この指摘の比重の置き方について、検討をさせて頂きたい。

指摘を頂いた事については、私と副会長、第 1 部会長で協議し、よい形を提案させて頂きたい。続いて第 2 部会長から報告をお願いしたい。

(第 2 部会長)

(第 2 部会の議論内容の報告)

(会長)

当初 5 番目の大きな大綱の柱が、「環境を守り育てる魅力的で安全なまちづくり」であったが、これを 2 つに分け「環境を守り育てるまちづくり」と「魅力的で安全なまちづくり」という形の提案を頂いた。そして「5」魅力的で安全なまちづくり」の中で、「(4) 景観に配慮したまちづくり」を付け加えた。そして6」の「活力あふれにぎわいのまちづくり」では、地域産業の活性化という点で、コミュニティビジネスにも触れる形で、相当の追加の形で修正案をとりまとめた。

(H 委員)

「コミュニティビジネス」という言葉を今初めて聞いたので、素人に分かるよう説明をして頂きたい。

(第 2 部会長)

元々コミュニティビジネスはイギリスが発祥である。産業構造転換する中で、そのままの雇用を供給する産業を整備する事は出来ないため、新たな就業の形を探すと、実は地域の中に、コミュニティの中に色々な必要な仕事が多くある。それを自分で拾い起こし、新しい仕事の形として興し、企業に依存して働くのではなく、社会の中で一から仕事を探す方法等が継承された。日本に十数年くらい前から徐々に入り、福祉の分野、教育の分野、環境の分野とか色々な領域にまたがり、特に I T の分野に広が

っている。例えば、家庭に入ったがために、なかなか社会と交わる機会がない人たちが集まり、コンピューターの会社を作る、定年退職をされる方が小さいが福祉の仕事につく、このような小さな個人で興す、必ずしも大きなビジネスの会社を興すことよりも、社会の中で役に立ちたいという事を就業の形にする事を「コミュニティビジネス」と呼ぶ。

(H委員)

今の市場規模は、GDP・GNPの中でどれくらいなのか。

(第2部会長)

0.5%ぐらいと一説には言われる。色々な計算方法がある。自治体によって定義が違うが、これから増えていくと思われる。あえて「コミュニティビジネス」を言う委員の方もいるという事は、吹田市が定年退職を迎える方達が多く、女性の社会参加が盛んだという事、福祉環境の分野で単に行政だけ取り組むのではなく、NPOとか「コミュニティビジネス」が社会を支えるような、吹田らしさが出る「コミュニティビジネス」があると思う。

(I委員)

「コミュニティビジネス」は新しい言葉でわかりづらい。2010年問題が言われているが、これは団塊の世代がちょうど卒業し、一度にそういう人が増える。そういうコミュニティ活動の展開による新規ビジネスや、環境から発生する新しいビジネスもあり、これはやはりコミュニティなり、NPOから発生するビジネスと同時にあわせてこれから先、今まで無かった形の新規のビジネスではないか。それをもう少しかみ砕いた形で表現することが必要ではないか。

(第2部会長)

この言葉だけ展開するとわかりにくくなる。「コミュニティビジネス」という言葉で押さえておいた方がいい。

(H委員)

これからの15年間を拘束する基本的なものとして、説明を受けなければ分からないようなものならば、注釈を付けるとか、何かしなければ、このまま市民の元に持ち込むと、少し違和感があるかと思う。「活力あふれたにぎわいのあるまちづくり」の文章を読むと、吹田は工業など地場産業があり、この地場産業をどう振興するかが課題である。ITも大切で、「コミュニティビジネス」も大事だが、吹田の中のGDPで言えば、比重として既存の商業や工業がやはりまだ頑張っていて何とか維持しているという事がある。それに対する行政側の支持が全体の意識として、それを大事にし、一つ

の柱なり、文章として必要と思う。既存の産業に対する支援策も、一つ文言としては是非入れて頂きたい。

(会長)

先ほどの「コミュニティビジネス」は、市民に分かりやすく配慮する。既存の産業に対する支援という問題にもどこかでふれるべきだということである。

(C委員)

5ページ4行目「まちの整備を適切に進めていく必要があります」は当たり前過ぎていかなものか。より計画的に整備を図る必要があるというニュアンスが欲しい。

震災の事を書いているが、「教えてくれました」と震災に礼を言っているような言い方である。「再認識させられた」という言い方にして頂きたい。

「(1)の安全なまちづくり」で、「防災性の向上」とありますが、その表現ではわかりにくい。「防災力」の事だと思う。

「助け・助けられる関係」とあるが、「互いに助け合う関係」という表現が良い。

「公共の交通機関の利用が優先される」という事だが、これは「公共交通機関をもっと使いましょう」という言い方ではないのかと思う。「促進される」という言い方でも良い。

「(4)景観に配慮したまちづくり」の「定住のまちづくり」も、「定住したいまちづくり」の方が分かりやすいと思う。

最後の4行が長くてよく分からない。「地域の生活や...」からで、2つぐらいにして分かりやすくして頂きたい。

次のページの1行目、「立地条件のよさ」は「良い」という漢字を使う方が良い。

3行目の後ろで、「事業所の開業や廃業の比率も高くなっています」とあるが、開業よりも廃業のほうが比率が高いと思うが、教えて頂きたい。

(会長)

最後の点は、開業廃業共に高い、つまり両方とも高いということか。

(第2部会長)

新陳代謝が激しいということである。

(C委員)

分かった。

「生活様式」や「生活スタイル」の表現は、やはり「ライフスタイル」なら「ライフスタイル」に統一した方がきれいと思われる。

(会長)

特に5ページの真ん中の「安全なまちづくり」の部分で「防災性の向上」は、「防災力の向上」等他の表現を検討したほうがよいということもあった。数多くのご指摘につきましても後ほどまた第2部会長と検討させて頂きたい。

(D委員)

5ページ「(1)安全なまちづくり」の終わりから3行目、「消防・救急については」とあり、次は「消防力等の整備、充実」とあるが、ここは「消防力や救急医療体制の整備」とかいうように明確にして頂いた方が、「安全なまちづくり・安心して暮らせるまち」という言い方からはふさわしい。

(会長)

「安全なまちづくり」の最後の所で、「消防力」だけでなく、「救急医療体制等の整備」というようにとの事である。

(J委員)

7ページの下から5行目の工業について、「環境面における周辺地域との調和を図る」とあるが、どういう環境面における周辺地域との調和かという事がよくわからない。付加価値の高い都市型工業というのはどのような事を言われているのか。「工業」からその下の行まで「図っていきます」とあるが、分かるようにもう少しコンパクトにまとめて欲しい。

(事務局)

都市型の工業という事で、住環境もあり、居住機能と生産機能の共生という事細かい内容が入り、その意味での環境の調和について意識させて頂いた。

付加価値の高い都市型工業ということだが、生産性が高い数値的なものだけでなく、例えば人工衛星の中にあるジャイロを作っている所もあり、色々な意味で、小さい事業所だが世界的にも発信出来る価値の高い生産性を持った事業所もある。都市型の工業とはそれを目指して頂きたいという意味である。

(J委員)

言わんとしていることは分かる、やっている事は分かるのだが、この言葉で分かるかどうかと言うことは非常に疑問に思われる。

(会長)

7ページの下から5行目の工業以下4行と、6ページ目の下から4行をもう少し整理し、コンパクト化が必要であると指摘があった。

(K 委員)

7 ページの「(1) 地域の特性を生かした産業の振興」の部分で商業、工業、農業を主語に書かれているが、分類が旧態依然だと思う。特に工業の所で、実際に思っているのは、江坂の例もあるが、サービス業、情報サービス業を想定されていると思われる。工業だけではないと思う。製造業もしくは、製造業の中のサービス業について、付加価値の高い工業は、産業なり、高度情報化産業と言う方が良いと思う。

6 ページの確認だが、「新たな緑の創出に努め」と下線があるが、緑の量の意味なのか、時々水辺という意味も持つかと思うが、いずれの意味なのか。

(第 2 部会長)

私は「量」、「面積」という事だと思っている。

(事務局)

議論の中では「量を増やす」という事だった。

(会長)

「6活力あふれ...」の「(1) の地域の特性を生かした産業の振興」の表現等を考える必要がある。

(B 委員)

1 ページの「(1) 多様なコミュニティ活動」で、新しい施設をなかなか建てられない状況である。だからこそ、施設間のネットワークにより、色々とコミュニティ活動と連携して使っていく事だと思うが、それだけでなく、例えば学校で、高齢者のための施設も一緒に入るところもある。「多機能化」「多目的化」という、それぞれの一つ一つの施設の色んな使い方が出来るという事も合わせて必要だと思う。

(会長)

1 ページ目の施設の問題で「多機能化」、「多目的化」をより明確にする文言を検討して欲しい、という指摘があった。

(I 委員)

1 ページの2の冒頭の 2 行、「地方分権の進展に伴い、...主体的・個性的なまちづくりに取り組んでいく可能性が高まっています」の所に、「市民自らが」という言葉が入ったのだが、元々の素案では、「市民自ら」という言葉は入っていなかったと思う。ちょっとニュアンスが違うと思う。地方分権が進む事と、それにより地方自治体で、地域でその市民による活動が高まる事は視点が違う問題だと思う。元に戻して頂

いた方が、私は良いのではないかと思います。

(第2部会長)

「地方分権は市民参加を行いやしくするために行ってこそ初めて分権の意味がある」という議論が全体の流れと思い修正をした。ご理解頂けないか。

(I委員)

地方自治体の中でそのような活動を高める必要がある事は分かるが、「可能性それ自体が高まっていく」というより、それに対する「期待感が高まる」という事だと思う。

(第2部会長)

期待感で終わらせず、このような「分権化の流れに伴って市民自らが地域の特性を活かして主体的に取り組んでいく」としなければならぬ事が部会としての共通理解であったと思う。

(L委員)

言葉だけの問題だと思われる。私もこの言葉には違和感を覚えているが、内容的に言えば、全く正しいことを言っている。これはもう「市民自らが主体的・個性的に取り組んでいこうとしています」と言い切れれば、もうきれいにすっきりと思われる。

(I委員)

3ページで5を2つに分け、「(1)環境負荷の少ない住みよいまちづくり」としているが、むしろこの「住みよい」は「5環境を守り住みよいまちづくり」とした方がいい。環境を守ることは、生活の質を落とさないで、「住みよい」ということを維持する事を同時に進めるべきだと言うことが、考え方だと思われる。「環境を守り住みよいまちづくり」という事を表に出すことにより、「(1)環境負荷の少ないまちづくり」ということでいいのではないか。

我々が色々意見を出す事により、修正が加わっていくことで、かなり当初の構文が崩れて来ている部分があると思われる。もう一度、それを整理し、分かりやすい文章にして頂く。「環境」という言葉なども、「就労を支援する環境づくり」や「消費生活を支える環境づくり」、あるいは交通環境とあちこち出てくる。明確に用語の使い分けも全体を通して整理して頂く必要があると思われる。

(会長)

用語の統一及び市民にも理解しやすいという視点でもう一度見直しが必要であるという事である。

(M委員)

6ページ「(4)景観に配慮したまちづくり」については個人的な意見を持っている。今後の吹田市のまちの空間を大切にしていきたい。吹田市はあまりにもマンション建設が多すぎるのではないかと、緑を無くしているのではないかと気がする。

(会長)

M委員の指摘の点については配慮させて頂く。

(F委員)

個人的な資料を配っている。資料を見ながらお願いしたい。

1ページ、前文の2行目「可能性が高まっています」は、原文の「必要性が高まっています」の方が良い気がする。

前文の9行目「環境など」という表現になっているが、「防犯」は、含めないのか「防犯」を含むと考えると良いのか確認したい。

5ページ「魅力的で安全なまちづくり」だが、これの前文の10行目、「安全なまちづくり」に対し、「温かみのある」という言葉を入れられないか。「(1)安全なまちづくり」で7行目に「安心・安全な生活環境づくり」とあるが、「温かみのある」という言葉を入れたいらどうか。

「(2)暮らしや都市活動を支える基盤づくり」だが、これは第2部会の方で一度否定はされたが、道路、公園、上下水道とあるが、「鉄軌道」を加えられないかなと思う。市内の交通体制で、例えば、鉄軌道、バス、自転車の機能分担等は利便性とか経済性とか安全性とか環境適合性とか色々な条件を比較再検討する必要が有るのではないかなと思う。必要な場合は再編成する必要がある。JR西吹田と吹田方面とのつながりを検討しなくてはならない。西吹田は都市の端にあり、外環状線ができると、もう大阪とつながってしまい、吹田の方には向いてこない。その辺の確認をしたい。

6ページ「(3)良好な住宅・住環境づくり」の3行目に「良好な住宅の確保に努めます」には「良好な住宅」に含まれているのかも知れないが「緑を豊かにした」という言葉が少し入れられないか。

6ページの最後の方に(5)として、「大規模再開発用地を活用したまちづくり」という事柄が入れないか。社宅の跡地とか工場跡地とかの大規模の再開発用地が、これは市民共通の貴重な資源として、多世代が交流できるコミュニティ活動の拠点となるまちづくり等のために優先箇所と出来るような規制とか誘導が出来ないかなと思う。ここで入れられなければ第3章の2都市空間で触れることはできないか。

(会長)

この点については、全体との整合性等を検討させて頂き、どのような形で生かすの

がよいか、再度検討をさせて頂きたい。

(A委員)

6ページの「(3)良好な住宅・住環境づくり」の最後に「新たな緑の創出に努め」とあるが、「環境に配慮した」という言葉を付け加えられればと思う。それはそこでいいのか、それとも前の[5]で言う方が良いのか分からないが。

(会長)

全体の用語の問題等、市民により分かりやすくという問題等を含め、総合的に私と副会長、第1部会長、第2部会長とこれまでの部会での検討等を踏まえ、再度皆様方のご意見を生かしていくよう検討させて頂きたい。

共通の事項として、全体会で検討をすべき項目が出ている。一つは全体を通しての主語をどうするかで、部会の方から主語を市民とするべきという意見が出ている。2番目の点は大綱の順序、先ほど第2部会の方で大綱の柱が一つ追加されている。大綱の順序だては再検討が必要である。3番目は部会の検討の中で既にある都市宣言の「非核平和的宣言」、「健康づくり都市宣言」である。

(事務局)

(資料 - 54の説明)

(F委員)

やはりこれは「吹田市民」というべきと思われる。21世紀の初めだからどこもそのような状態になると思われる。少し時間はかかり、遅れてもその方が望ましいと思われる。「吹田市民」とした場合、「吹田まちづくり宣言」といったものを作り、「私達、市民がこれからやっていくのだ」という事を示してはどうか。

(会長)

私達吹田市民という表現及び、吹田まちづくり宣言の作成、必要性という事について、提案を頂いた。

(B委員)

総合計画第3次の案を作る段階から市民がもっと入って作って欲しいと思っていた。しかし結果的に、市の職員の作業部会で積み上げたものをこの総合計画審議会で出されて作っている。主語を市民に変えても、作り方自体が市民が主体になって作っていない。形だけ整えても意味が無い。次こそは、ぜひとも市民が一から作れるようにして頂きたいと思う。

(L 委員)

吹田市という意識そのものが形成されているのかという点で非常に大きな疑問を感じるところが多くあった。吹田市を動かすための、一つの意思が形成されているのか。例えば、「今後の人口に影響を与える住宅建設についてその動向を見極める必要があります」とあるが、「その動向を見極める」という言葉を使う事は、増えるのか減るのかという事に関して「放っておく」という事を意味している。総合計画ではそのような書き方をしている事は、市の意思はないという事になってくる。「このようなまちを作りたい」という意思を反映するという事自体が大切で、今回はまだ市民を主語にする段階に至っていないのではないかと思う。

(会長)

F 委員から「市民」を主語にすべきである意見、B 委員と L 委員は冷静な現状判断において、まだ「市民は」という主語の段階に至っていないという意見である。

(H 委員)

下から積み上げる意味で言えば、確かに結果的に市民の皆さんの話をしていると思う。この間に広報という形で、発表し、様々な意見を頂いている訳なので、その全てをひっくり返す事はどうかと思う。今後の課題としていくべきと思う。「市民が」という言葉の問題についてだが、これは行政自身も拘束される、方向付けされる意味で、地方自治そのものをあいまいにしてしまう事にならないかという危惧があるので、全ての文章を「私達市民は」という事に書き換える事は、現在の積み上げてきたものからすると無理があるのではないかと思う。全体ではそれは出来ないと思う。

(会長)

今 H 委員にまとめて頂いたように、本来の主旨として「市民は」という主語で始まる形が望ましい。しかし、それに関して B 委員の指摘のように、それに見合う手順が必要である。必ずしもそれに見合うだけの十分な市民の下からの積み上げという形でここまでは来ていない。そのような現状を踏まえると、H 委員、L 委員の指摘のように、そのような「市民は」という基本的な考え方を十分に持ちつつ、現状の形というもののある程度は維持せざるを得ない。それらの形でとりあえずは進めさせて頂きたいと思う。異議はないか。

(複数の委員)

異議なし。

(2) 第 3 章 人口と都市空間 について専門作業部会報告

(会長)

「第3章 人口と都市空間」について専門作業部会の方で5回に渡り、議論を積み重ね、修正案がとりまとめられているので、専門作業部会長の方から報告をお願いしたい。

(専門作業部会長)

(資料 - 55、56、57の説明)

(会長)

基本的には35万人という事を一つの目標として掲げるという中で、大規模開発を活用したまちづくりみたいなものをうまく進めることにより、人口減少の歯止めをかけるといったところで、特に千里ニュータウンの問題等々について、文言を相当程度に加える形で提示している。

(L委員)

千里丘に関し、良い住宅がどんどん出来ている事はある意味で必要だと思われる。その意味で反対というような事はない。今の時期の新たな住宅に流入する人口に関して言うと、高度成長時代に新たにニュータウンが出来て集まってきた人たちとは全く違う。この違いは、サラリーマンで大阪の中心部で働いた給料を吹田市に持ってきた。その市税で、吹田市というまちを作った。ところが、この地域にマンションが出来て住んでいる人たちは、年齢層にもよるが、福祉のサービスを受けなくてはいけない人たちが来る可能性が非常に高い。吹田市が本当に必要な対応が出来るのかという事を考えてからでなければ、人口の数値には意味が無いと思う。高齢者やここで今から育てていく子供達は、単に建物があればそれでいいというのではなく、例えば今まであって当然だった都市の中の農地などが、子どもの自然に触れ合うという経験、あるいは、お年寄りが自己実現をするという事にどれだけ大きな役割を果たしてきたかと言うことを今後のまちづくりの中でどの程度重視をするかという事である。吹田市の住民に対して公共サービスの負担が大きくなっているのだが、その中で、どれだけの負担で新しいそういったものを作ることが出来るのかという、素晴らしい吹田の都市環境のただ乗りを、どんどんこれ以上認めていく形になるのかという問題もある。様々な数値や状況の認識の積み上げの上で作らないと、総合計画を作っても意味がないと思われる。

(F委員)

都市空間については、部会の報告はかなり取り入れられ、良いと思ったが、読むに従いどこかで見た文章が出てきた。それをチェックすると、マスタープランの内容と同じである。一部変わっているだけである。良い文章だが、このままでは採用できないと言うのが私の意見である。総合計画はマスタープランよりも上の段階である。市

としての考えがあるのかという感覚さえ抱く。

私も何とか我々の文章に出来ないかとやってみたが、途中挫折して考えついたところだけ載せている。

(I 委員)

私も読んでマスタープランとほぼ変わらないことに、「がっかりした」という事である。ハードの面ではマスタープランがやはりベースになっており、それを無視して動けないと思うので、それは重視するのは重々分かる。総合計画は上位計画であるという事で、ソフトの面では、やはりもう少し、我々の総合計画の意向というものを明確にする。その時に人口は35万という、それなりの大胆な予測が出来る。ハードのマスタープランをベースにするが、ソフト面をそこ織り込み、どのように「人口推計」とするかもある。それから都市空間に関して、「空間」というのは非常にわかりにくい。いうならば「都市形成」という事の方が市民にとっては分かりやすいと思う。「都市空間」というのはいかにもわかりにくい言葉だと思われる。やはり我々なりの総合計画審議会なりの意向を取り入れてほしい。

(専門作業部会長)

言われる事は良くわかる。しかし、この総合計画に過大な期待をされてもまた困るという事がある。マスタープランと言うのは、これは市民参加で作られたもので、別の審議会の承認を頂いている。これを踏まえるということはひとつ大前提である。それを一つ一つ点検しながら書き換えるという作業をする。さらに15年、20年という長いスパンを考え、このまちの人口規模、それから開発動向を、民間資本などがどう展開するかという事を考え、L委員が言われた財政的な状況を考え、この辺までいくだろうという事を予測する訳である。それは、現実的な路線でそこまでいけるかどうかという事を検討する作業であり、ただ単に理想を言い、それを示すだけでという事ではない。この種の総合計画に夢が必要だ、理想が必要だという事は分かるが、我々が非常に慎重にならなければならないのは、今の日本というのは非常に大きな転換点にあり、高度経済成長期のような大きな夢を国民に示せない非常に難しい状況の中で、非常に丁寧な舵取りが必要である。その中で、夢を見るのも良いが、道を失わないようにするための慎重な気配りも非常に重要である。今後その点は第3次の総合計画の難しい点であるという事を申し上げたかったが、実はマスタープラン一つ一つ点検するに至っても、その必然性に関して、なかなか難しい問題がある。確かにこの総合計画はマスタープランの上位にあるべきものであり、ここである一定の方向を示す事も分かるが、それを受け、マスタープランを書き換える作業も将来生まれるが、その作業の過程の中でやはり避けて通れないということは認識する必要がある、それに対する対策を丁寧に考える事も必要である。

(L 委員)

基調はやはりバラ色の夢ではなくて、やはり現実という話がある。「それが果たして本当に大丈夫なのか」という裏打ちを、吹田市の総合計画として大丈夫なのか。そこに至るまでの都市インフラの整備に吹田市の財政はついていけないのではないかと、いう所を裏打ち無しに言葉を並べるわけにはいかないのではないかと。

(専門作業部会長)

それが市の限界である。

(H 委員)

前の総合計画の議論の経過を後で知ったが、高度成長期の時に作った前回の総合計画で、吹田の場合は計画的なまちづくりという事で、かなり企業にも規制をし、開発にもブレーキをかけて誘導した結果、ニュータウンとあいまってかなり衛星都市としてのまちづくり例としては成功例と言われている。これを読むと、そのように積極的な総合計画審議会のポリシー、主張というか、提案があまり見えてこない感じがした。もっと具体的な、踏み込んだものがあると思った。人口を35万人という事について、これは非常に現実的な提案で、ここから出発というのは大賛成である。ただし、もう少し中身として発展性、吹田市独自の工夫が盛り込まれる議論が必要だと思う。

(専門作業部会長)

この種の開発行為に関する規制というのは条例を整備し、今までニュータウンとの関係、大阪府との役割もあり、それなりに計画的に推進してきたという事は私も認める。今後の土地利用の展開に関し、今の吹田市が十分な条例を持っているかということ、私は持っていないと思う。市議会の取り組みはどうなっているのか。そちらの方から何か指摘を頂ければ、我々も参考になることが多い。

(H 委員)

議会としてはさまざまな意見がある。先ほどあった、千里丘問題は技術的には対応に追われているというのが現実である。効果的なものが議会でもコンセンサスを得られればと思う。

(会長)

第3章人口都市空間について、非常に重要な指摘があった。これについて、誠に恐縮だが、今すぐこの場で「かくあるべし」という事にはなり難い状況である。会長である私と、副会長に、専門作業部会等で議論させて頂き、皆様方の意見と合わせ、もう一度7月28日の次の審議会において案を示し、議論をさせて頂きたいと思う。

(3) 第5章 基本構想推進のために について

(会長)

「第5章 基本構想推進のために」は次回語りたい。次回の予定について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

今回は今日残った第5章とそれから、将来像について議論頂きたい。

(会長)

それでは第4回目の審議会を閉会する。

以 上